

鹿児島伊藤県知事記者会見
(2014.11.7) より抜粋

「何よりも、実は避難するのに相当の時間的な余裕があります。これは今回の規制委員会の審査を受けた、合格した原発が、どういう形でそのあと炉心等々が変化するかという時間軸で追っていくと、実はけっこう時間があるので、そういう意味でゆっくり動けばいい。

はたまたもう一つは、実は、ちょっと専門的な話になって恐縮ですが、要するに今回の制度設計というのは100万年に1回の事故を想定するわけですね。そしてその時は100テラベクレル。

それが同じ条件で同じ様な事故が川内に起こった時にどうなるのかというのは、実は5.6テラベクレル。そうすると、炉心から5.5キロの所は毎時5マイクロシーベルトなのです。5マイクロシーベルトというのは、20でもって初めて避難ですから、動く必要がない。家の中にいてもいいし、普通に生活していてもいいという、そのレベルの、実は、放射能しか、人に被害が起こらない。5マイクロシーベルトというのは一週間ずっと浴び続けて、胃の透視の3分の1ぐらいの放射能ですね。

実はそこまで追い込んだ制度設計をしているので、時間もあつし、避難計画が実際にワークする、そういうケースもほとんどないだろうし、それが、多分あと川内原子力発電所10年、そうすれば止まるかもしれませんが、において考えると、大体それでカバーできるのかなと内心思ってます。

それと同意の範囲。したがって同意の範囲も、従来のスキームでいいと。ありとあらゆる、今まで、議論をしてきました。立地の市、ないし県は相当な知的集約もあります。ですから、それを一律に拡大すると、きわめて原子力発電所について理解の薄いところ、知識の薄いところで一定の結論を出すと言うのは、必ずしも我が国の全体をまとめる上において、錯綜するだけで、懸命なことではないと私は思うのですよね。」

後藤政志氏講演会

元・原子炉格納容器設計者が問う原発再稼働

川内原発が 溶け落ちるとき

2015年1月28日(水) 19:00~
宮崎市民文化ホール(イベントホール)

入場料/前売800円(当日1,000円)

講師 後藤政志さん

●プロフィール

元東芝・原子炉格納容器設計者、工学博士。
福島第一原発事故の翌日、田中三彦氏らと記者会見し、炉心溶融の危険性をいち早く指摘。以来、原子炉格納容器設計者の観点から事故分析を行っている。

2011年5月、参議院行政監視委員会に参考人として出席。

2011年11月~12年8月、原子力安全・保安院「ストレステストに係る意見聴取会」委員

2013年4月より原子力市民委員会委員

主催/後藤政志さんの話を聞く会

問合せ: 090-8357-9827 (鶴内)